



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS [3]

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

Mix Big, Mix Small, ST250 // CLASSIC // NEO STANDARD

2 Sun. June

イベント全体概要報告

■開催概要

- 大会名称 : 2019 FUN & RUN! 2-Wheels [3]
(MFJ承認競技会)
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース/東コース (2.243km)
三重県鈴鹿市稲生町7992
- 開催日 : 2019年6月2日(日)
- 天候 : 快晴/路面:ドライ → ウエット
- 開催クラス : ★総参加台数/141台
CLASSIC (50/90/125) …20台
CLASSIC (350/500/OPEN) …10台
FUN & RUN Mix Small/EXPERT…18台
ST250…8台
FUN & RUN Mix Big/EXPERT…29台
NEO STANDARD (Ninja250R) …15台
NEO STANDARD (YZF-R25) …12台
NEO STANDARD (CBR250R) …14台
NEO STANDARD (VTR250) …4台
NEO STANDARD (G310R) …11台

■次回開催予定

- 大会名称 : 2019 FUN & RUN! 2-Wheels [4] Full Course Special
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット・国際レーシングコース/フルコース (5.821km)
- 開催日 : 2019年9月7日 (土)
- 開催クラス : ROAD STAR CHALLENGER I、ROAD STAR I、ROAD STAR EXPERT I、ROAD STAR II
ROAD STAR EXPERT II、ROAD STAR WARS I、ROAD STAR WARS II、NEO STANDARD

★レースリザルトは、インターネットでご覧いただけます。

リザルトページ https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

★レース写真は、バトルファクトリー様のHPでご購入いただけます。

バトルファクトリーHP <http://www.battle.co.jp/>



年に一度のCLASSICクラスも開催されたファンラン[3] 往時を偲ばせるサウンドがサーキットを包み込んだ

「みんなで走ってバイクをもっと楽しもう!!」をコンセプトに1999年より開催されている「FUN & RUN! 2-Wheels(通称“ファンラン”)」。このイベントの今シーズン3回目が開催された。

今回のトピックはなんと言っても「CLASSIC」クラスのレースが開催されたこと。1974年以前に製造されたクラシックバイクを中心としたマシンに参加資格が与えられるこのクラスでは、「50/90/125」と「350/500/OPEN」の2グループに分けて公式予選と決勝レースが行われ、表彰式も6つのカテゴリーごとに行われた。今回は30歳から73歳までの30名が参加。もっとも古いマシンは1969年式のヤマハFS-1だった。

また、今シーズンから「FUN & RUN Mix Big+OPEN Racer」クラスより改称された「FUN & RUN Mix Big」クラスではハイスピードバトルが、「FUN & RUN Mix Small」クラスと「ST250」クラスの混走レースでは小排気量クラスならではの接戦がそれぞれ展開され、観戦者を魅了した。

昨今の“ファンラン”で人気となっている「NEO STANDARD」クラスも盛り上がった。参戦マシンが比較的リーズナブルな価格帯で販売されており、参戦しやすいことに加え、スプリントレースでありながらレース途中でのライダー交代またはピットインが義務付けされており、セミ耐久のような楽しみ方も可能なこのカテゴリーには合計56台が参加。<Ninja250R/YZF-R25>、<CBR250R/VTR250/G310R>にダブルエントリーするチームもあった。花田定夫はNinja250Rでクラス2位に入賞。CBR250Rではクラス優勝を果たした。

次回の「Full Course Special」は今シーズンの最終戦。開催当初から注目を集めているナンバー付き車両によるタイムアタック競技の「ROAD STAR」クラスとそのレース競技である「ROAD STAR WARS」クラス、さらには「NEO STANDARD」クラスのレースが文字通りフルコースを使って開催される。このように様々なバイクのタイムアタックやレースが行われるこの最終戦にも是非注目していただきたい。



CLASSIC<50/90/125> 決勝スタート前

CLASSIC<50 / 90 / 125>

2番グリッドスタートの鯉住健治、3列目7番グリッドスタートの堰本洋平、3番グリッドスタートの水藤哲夫のオーダーでオープングラップを帰ってくる。しかし2周目をトップで帰ってきたのはポールポジションからスタートした黒川満晴。それに鯉住、水藤と続く。メインストレートで2台が接触して転倒したことにより、赤旗が出されてレースは中断。6周による第2レースでは鯉住がトップで1コーナーへ飛び込んで行くと、オープングラップから後続を引き離すことに成功する。単独トップとなった鯉住を黒川が4周目にパス。その黒川がトップチェッカーを受けると同時にC-125クラスのウィナーに。C-90を制したのは総合5位の三枝重治だった。



CLASSIC 90表彰式
(優勝:三枝重治、2位:藤澤英一、3位:松原隆美)

CLASSIC<350 / 500 / OPEN>

ポールポジションスタートの田中信次がトップでオープングラップを終了。それに2番グリッドスタートの波多野祐也、5番グリッドスタートの丸尾慶仁、4番グリッドスタートの西部省志と続く。圧倒的なペースを披露しながら田中が単独トップに。波多野も単独2位となる。西部と丸尾がテールtoノーズのバトルを展開。西部が丸尾をパスすると、丸尾は伊藤大三の先行をも許して5位に脱落する。結局、田中が2位以降に15秒868ものアドバンテージを築いてポールtoウインを飾ると同時にC-OPENクラスのウィナーに。終盤で波多野をパスした西部が総合2位チェッカー。波多野が総合3位入賞を果たした。C-350を制したのは総合7位の坂本誠司だった。



CLASSIC 125表彰式
(優勝:黒川満晴、2位:水藤哲夫、3位:大日方敏夫)



CLASSIC OPEN表彰式
(優勝:田中信次、2位:西部省志、3位:波多野祐也)



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 3

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

Mix Big, Mix Small, ST250 // CLASSIC // NEO STANDARD

2 Sun. June

レースレポート-2 [レース形式競技]

FUN & RUN Mix Small / EXPERT+ ST250

2番グリッドスタートの可部谷雄矢が絶妙なクラッチミートを披露してホールショットをゲット。それに3番グリッドスタートの立間文章、ポールポジションスタートの永田純一と続く。そのオーダーのままオープニングラップを終了すると、2周目のメインストレートで永田が立間をパス。永田は3周目のメインストレートで可部谷をもパスしてトップに立つ。永田は徐々に可部谷を引き離して単独トップとなるが、6周目には可部谷が再び永田のテールを捕らえてこれをパス。可部谷、永田のオーダーでファイナルラップへと突入すると、1コーナーで永田がトップに。永田がトップチェッカーを受けた。総合2位は可部谷。立間が総合3位入賞を果たした。



FUN & RUN Mix Small II 総合表彰式
(優勝:可部谷雄矢、2位:畔柳章、3位:河合健氏) (Small II 優勝:鈴木博喜)



FUN & RUN Mix Small I EXPERT総合表彰式
(優勝:永田純一、2位:立間文章、3位:芝井賢一)



ST250総合表彰式
(優勝:竹田透、2位:海良幸治、3位:寺本浩紀)



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 3

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

Mix Big, Mix Small, ST250 // CLASSIC // NEO STANDARD

2 Sun. June

レースレポート-3 [レース形式競技]

FUN & RUN Mix Big / EXPERT

ウォームアップラップ中に雨が降り始めたため、4周減算されて6周で行われることとなった決勝レース。ポールポジションスタートの高村信二と2番グリッドスタートの井沼真樹が欠場を決める。オープニングラップをトップで帰ってきたのは4列目11番グリッドスタートの葛岡勝徳。それに4番グリッドスタートの中川祐司が続く。中川はすぐに葛岡をパス。3周目には5番グリッドスタートの高橋洋之が葛岡をパスして2位に浮上する。中川は単独トップに。高橋の背後に8番グリッドスタートの内田洋一が接近する。中川が後続に10秒008ものアドバンテージを築いてトップチェッカー。内田が高橋をパスしたが、内田は賞典外参加。高橋が総合2位となった。



FUN & RUN Mix Big I / OPEN Racer / Mix Big IIカテゴリー別表彰式
(Mix Big I優勝:中川祐司、OPEN Racer優勝:柴田達哉、OPEN Racer2位:片岡亮太、Mix Big II優勝:山元清和)



FUN & RUN Mix Big I EXPERT / OPEN Racer EXPERTカテゴリー別表彰式
(OPEN Racer EXPERT優勝:高橋洋之、Mix Big I EXPERT優勝:加藤孝啓、OPEN Racer EXPERT 2位:白石克郎)

NEO STANDARD <Ninja250R / YZF-R25>

3番グリッドスタートの平山美奈／福山京太組がホールショットをゲット。しかしオープニングラップをトップで帰ってきたのは5番グリッドスタートの山下浩司／江口忠征組だった。それに平山／福山組、前戦でYZFクラス2位となったため、15番グリッドからのスタートとなった松浦光利と続く。前戦のYZFクラスウィナーである鳥居典生は24番グリッドから大きくジャンプアップ。鳥居は2周目の2コーナーで2位まで浮上する。その鳥居がファステストラップをマークしながら集団を抜け出してトップに。松浦も単独2位に。それに前戦のNinjaクラスのウィナー山本晃久と続く。ピットイン後も鳥居はトップをキープ。2位に松浦、3位に山本というオーダーも終盤まで変わらない。結局、鳥居がトップチェッカーを受けてYZFクラス2連勝。総合3位入賞を果たした山本が開幕戦と第2戦に続き、Ninjaクラスで3連勝を飾ることとなった。



NEO STANDARD<Ninja250R>表彰式
(優勝:山本晃久、2位:花田定夫、3位:廣瀬直人)



NEO STANDARD<YZF-R25>表彰式
(優勝:鳥居典生、2位:松浦光利、3位:尾崎秀男)

NEO STANDARD

<CBR250R/VTR250/G310R>

2番グリッドスタートの花田定夫がホールショットを奪うと、オープニングラップの逆バンクあたりから後続を引き離しはじめる。その花田がオープニングラップ終了時点で1秒856ものアドバンテージを築くことに成功。若干離れて2位を走るのは3番グリッドスタートの大見常史。さらに少し離れて萩原強と藤下弘幸がテールtoノーズの状態です。ポールポジションからスタートした梶野幸／玉田敬済組はオープニングラップ終了時点で早くもピットイン。玉田がレースの大半を走ることとなる。トップ3ではまず大見が20周目終了時点でピットに。花田も続く22周目終了時点でピットに入る。花田はトップのままコースに復帰すると、ペースをゆるめることなく周回。その花田がCBRクラスで優勝を決めた。VTRクラスを制したのは総合11位の樋口圭祐。総合2位の松浦光利／早野巖組がG310Rクラスのウィナーに輝いた。



NEO STANDARD<CBR250R>表彰式
(優勝:花田定夫、2位:大見常史、3位:梶野幸／玉田敬済)



NEO STANDARD<VTR250>表彰式
(優勝:樋口圭祐、2位:上平真、3位:高橋潤／浅沼鉄也)



NEO STANDARD<G310R>表彰式
(優勝:松浦光利／早野巖、2位:佐々木龍人、3位:中森健将)